令和6年度 第1回精華町町民健康づくり推進協議会 議事摘録

■日時

令和6年11月14日（木）14時から15時30分まで

■場所

精華町役場 庁舎6階 審議会室

■出席委員

- ・石井 好二郎 会長
- ・山本 正來 副会長
- ・細川 暢子 委員
- ・岸田 秀樹 委員
- ・内田 裕也 委員
- ・宮本 潤子 委員
- ・西山 純子 委員
- ・北 安代 委員
- ・堀口 紀代美 委員
- ・中戸 太郎 委員
- ・清水 泰律 委員（代理 古瀬 治男 氏）
- ・岩井 一葉 委員

■欠席委員

- ・本部 真理子 委員
- ・大田 梨沙 委員
- ・上村 卓三 委員

■傍聴者

なし

■内容

1. 開会

2. あいさつ 健康福祉環境部長

岩前健康福祉環境部長

●現在、令和7年12月竣工予定で、防災保健センターを役場敷地内に建設中です。現在の保健センターは、JAの施設を間借りし、事業実施時に職員が保健センターに

出向くという体制を取っていますが、完成後は職員が常駐し、平時は保健事業の実施、有事の際は災害医療保健活動の拠点として使用することを計画しています。委員の皆様には完成後、ご協力を賜る機会があるかと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

●本日は令和5年度健康増進計画進捗状況及び令和6年度の新規事業等の報告とともに、令和6年度の保健事業の実施計画に活かすため、委員の皆様から積極的なご意見ご提案をお願いします。

事務局

- 「精華町町民健康づくり推進協議会公開要領」第2条に基づき非開示とする場合を除いて原則公開となる。
- 会議要旨については、個人情報等公開すべきでないと思われる内容を除き、町のホームページ上で公表する。
- 会議録要旨については、同要領第4条に会議終了後、事務局において作成し、修正箇所等を委員の皆様を確認していただいた後で、公開する。

3. 委員紹介

4. 会長・副会長選出

5. 議事

(1) 令和5年度健康増進計画進捗状況について

- ①重点的取組に対する進捗状況について
- ②基本目標の進捗状況について

(2) 令和6年度新規事業等について

事務局

重点的取組に対する進捗状況及び基本目標の進捗状況については、重複する項目が多いため、含めて概要説明。〔資料3、4、5〕

- 【重点施策1：受診率向上へのしくみづくり】及び、
【重点施策2：生活習慣病改善のための取組の推進】について概要説明。
その他資料〔資料6〕
- 【重点施策3：子どもの適切なメディア利用と運動・身体活動の向上に向けた取組の推進】及び、
【重点施策4：つながりを意識した子育て力の強化】について概要説明。
その他資料〔資料7〕
- 【重点施策5：協働による健康づくり活動の発展】及び、
「せいか365」の取組について概要説明。
その他資料〔資料8、9、10、11〕

(3) 意見交換

石井会長

- ただ今、事務局より計画の進捗状況についての報告がありました。これについて、ご意見や感想などを皆様からお願いします。

細川委員

- 精華町は、運動や食生活の改善等、様々な取組を非常に熱心に取り組んでおり、成果を上げていると、いつも感心しています。

岸田委員

- がん検診や特定健診受診率について、[資料5]の目標到達とまではいかないまでも、1月の追加健(検)診等の実施により受診率向上につながっていると思います。
- 私のクリニックの患者でも保健指導を嫌がる人は多く、日頃から保健指導の難しさは感じています。特定健診受診者のうち、高血圧や血糖コントロール不良の方の保健指導の実施率や改善率のデータを町で把握していれば教えていただきたい。

事務局

- [資料5]の数値については、精華町国民健康保険加入の40歳から74歳までの方のデータとなっています。昨年度から特定健診の集団健診を再開し、これらの方を中心に保健師や管理栄養士、歯科衛生士等による保健指導に力を入れて実施していますが、改善率などの評価はできておらず、今後、経年的に見ていく必要があると考えています。

内田委員

- 本協議会の委員に就任して10年になります。長年、歯周病検診の導入を訴えてきましたが、今年度ようやく叶いました。国が平成元年に8020運動(“80歳になっても20本以上自分の歯を保とう”)という運動を提唱し、当初は10%未満だった達成率が、現在は50%を達成しています。また、最近では国民皆歯科健診についても提唱され、予防歯科の必要性が浸透してきたと実感しています。今後は、歯周病検診と後期歯科健診の受診率向上の取組に力を入れていただきたいと思いません。
- 資料4「基本目標1:正しくおいしく食べましょう!」の「(2)歯と口の健康」の「課題1-⑦学校と連携し、子どもの歯と口の健康課題について、共有を図る。」についてが未達成となっていますが、今後、どのようなことに取組む予定ですか。

事務局

- 学校と連携がようやく開始した段階で、現在、町内小中学校の養護教諭の定例会に年1~2回ほど参加させていただけるようになりました。その中で、学齢期における歯科の問題についても共有していきたいと考えています。

宮本委員

- 胃がん内視鏡検診を受診しました。町内で受診可能な医療機関があれば、さらに受診しやすくなると思います。また、内視鏡挿入時に画像を見ながら直接医師から説明を聞くことができ、バリウム検診と違う良さを感じた反面、内視鏡医からは、「異

常がないため今後は2～3年に1回の受診でよい」と説明を受けましたが、後日結果説明時に対応された医師からは、年1回の受診を勧められました。医師の見解の違いをどうのように捉えたらよいかご教示ください。

- せいか365プロジェクト「食育劇団もぐもぐ」に所属しています。活動開始17年目になり、今年度は町内全ての保育所・幼稚園での公演を再開していますが、最盛期は2,000人を超えていた園児数が現在は1,500人弱となっており、少子化を実感しています。

岸田委員

- 胃内視鏡検診の医療機関の基準が厳しく、開業医の参入するハードルが非常に高いことが、近隣の医療機関が少ない要因の一つとなっています。近隣で受診できる医療機関の拡充に向けて、町内及び管内の医療機関に調整を図っているところです。

事務局

- 胃内視鏡検診においては、町内で実施可能な医療機関が少ないため、京都府及び京都府医師会の構築した「京都府胃がん内視鏡検診管外受診制度」を利用し、今年度から導入することができました。受診間隔については町の検診においては、国のがん検診の指針（「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」）に基づき、「2年に1回」としています。検診医が毎年受診が必要と判断した場合は、医師の判断に基づき、保険診療で受診いただきますようお願いいたします。

西山委員

- 本協議会の委員に今回初めて就任し、精華町が様々な取組を実施していることを知りました。現在、食生活改善推進員として活動し、調理実習等、様々な食育啓発活動を実施していますが、同じ内容を繰り返すのではなく、時代や対象者に合わせてテーマや内容を見なおし、実施して行く必要性があると感じました。
- [資料10]のウォーキングコースの歩道シールがちょうど自宅前に貼られており、次のシールを探して歩くのは楽しみにつながるので、とても良い取組だと思えます。但し、コースとなっている歩道に雑草が生い茂っている場所があるため、気持ちよく歩けるよう整備されていると、さらに取組む意欲の向上につながると思えます。

石井会長

- ウォーキングコースを作る際に全コースを歩きましたが、雑草や歩道の整備が必要な箇所がいくつかありました。街路樹はメンタルヘルスが改善されるという研究報告がありますが、同じ植物でも雑草だと不快で気持ちが晴れないですね。健康推進課の担当外とは思いますが、ご検討ください。

事務局

- 担当課及び担当課を通じて道路の管理者へご意見を申し伝えます。

北委員

- 精華町は、保健指導や母子手帳アプリ等、デジタルツールを積極的に活用されおり、興味深く報告を聞かせていただきました。日頃から食生活指導をする中で指導の難しさを実感しています。物価高騰で食材も自由に買いにくくなっている中、町とし

てはどのように食事指導に向き合っておれるのかをお伺いしたいです。

事務局

●健診等での専門職による食事指導はもちろんですが、食生活改善推進員やせいか365プロジェクト「食育劇団もぐもぐ」等の皆様の活躍が本町の強みとなっています。毎年、町内の子どもたちへの食育劇や調理実習等を通じて、食の大切さについて啓発していただいております、行政だけでなく住民団体の皆様が積極的に地域への啓発活動をしてくださっていることで、より広く取り組むことができます。今年度は骨密度測定会において、食生活改善推進員の食育レシピの配布や、運動の啓発として、健康づくり・介護予防サポーター「すてき65メイト」による体力測定を実施しました。住民団体の力を借りた食の啓発と、それにより、各団体の皆様も元気になれるということを目指して取り組んでいます。

堀口委員

●社会教育委員の活動のほか、「いちご☆体操プロジェクト」に所属しており、昨年度から「食育劇団もぐもぐ」と町内の保育所・幼稚園での公演活動を再開できたことは喜ばしいことと感じています。また、精華町健康づくり・介護予防サポーター「すてき65メイト」にも所属し、地域の高齢者に体操を通じて地域とのつながりができ、元気になることを目指す「体操の居場所」づくりに取り組んでいます。その中で、体操の居場所へ参加してほしいけどなかなか参加されない方へ、どのように促せば参加してもらえるのか、いつも頭を悩ませています。

事務局

●健康推進課と高齢福祉課の連携事業「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施事業」において、健診未受診かつ医療機関の受診歴のない方を「健康状態不明者」と定義し、訪問を実施しています。訪問でニーズを聞き出し、地域包括支援センターや地域の居場所へつなぐ試みをしています。気になる対象者については、地域の方々と連携しながら支援できれば、さらに効果が得られるのと思いますので、ご協力お願いします。

石井委員

●活動への参加を拒まれる高齢者がおられるとのことですが、活動に参加するだけで、認知症を含む新規要介護者が減少するというデータがあります。その中で役割を持つとさらに減少すると言われており、社会参加は介護予防には非常に有効です。

中戸委員

●今回、初めて委員に就任し、精華町が各分野に対して着実に取組まれているということを知りました。商工会としましては、新型コロナウイルス感染症（以下「新型コロナ」という。）の影響が未だ大きく、特に飲食店においては新型コロナ流行前の状態までは回復していないと感じています。世間は新型コロナを忘れ去り、無かったことにしようとしているように見えますが、新型コロナの影響を総括して、今後の取組に活かすことが大事なのではと考えます。これを踏まえて、健康増進計画や保健事業は、新型コロナを受けて施策を変更・修正をされたのかについて、お伺

いしたいです。

事務局

- 第3期精華町健康増進計画は、コロナ禍の令和4年度に見直し作業を開始し、令和5年3月に策定しました。令和2年度から住民健（検）診や乳幼児健診においても一時中断せざるを得ない状況で、それ以降も新型コロナの影響なしには保健事業を実施できず、本計画は新型コロナの影響が多分に含まれたものになります。令和9年度には計画の中間見直しを行います。コロナ禍の状況を踏まえ、新型コロナの影響を総括した見直しを行う予定をしています。
- 新型コロナの影響と言うとマイナス面が目立ちますが、せいか365健康ポイントのアプリ化や母子手帳アプリの導入等、デジタル化の推進というプラスの面もあります。一方、保健事業では面接や訪問による対面での支援が求められるため、時代に合ったICTの活用と保健事業として大事にすべき人と人とのつながりをバランスを取りながら実施していく必要がある、というのが新型コロナを経ての保健事業としての学びです。

古瀬委員代理

- 「ふるさと案内人の会」に所属し、ウォーキングイベントを年15程度実施しています。今年度は新企画として、[資料10]の裏面にありますロゲイニングイベントを実施しました。チェックポイントを回って写真を撮り、制限時間内にゴールして、チェックポイントごとの得点で勝ち負けを競うゲーム感覚のウォーキングイベントです。普段のウォーキングイベントの参加者はほとんどがシニア層ですが、今回のイベントでは、赤ちゃんや幼児連れのご家族や高校生の参加もあり、新しい層の参加者の開拓につながりました。次回は商工会の店舗をチェックポイントする計画が上がっており、引き続き「歩く」楽しさを地域に広める活動をしていきたいと思えます。

石井会長

- 私が京都市で実施している調査で、高齢者のウォーキンググループにおいてグループを退会される方は、グループ内で年齢の若い方が多い、という結果が出ました。高齢者と一括りに言っても年齢幅が広いので、イベントを実施するときは年齢層を絞って実施すると、人を集めやすく、イベントも継続しやすいと思えます。

岩井委員

- 小中高校生の3人の子育てをしています。精華町に在住して18年になりますが、様々な取組をしているということ、今回の資料で初めて知りました。毎日子どもたちが学校から沢山の案内をもらってきませんが、その中から自分が興味あるものを選び分けるだけでかなり大変で、周知の難しさを感じます。
- [資料8]せいか365健康ポイント事業について、カード版はカードの管理が不便なため、アプリ版は活用しやすく良いと思えます。アプリでも情報発信ができれば周知の幅が広がるのではないのでしょうか。小中学校では全児童にタブレットが配布され、子どもたちもアプリになじみがあるため、「対象年齢18歳以上」の引

き下げもご検討いただきたいです。

事務局

- アプリ内から町ホームページにアクセスする機能があるため、健康情報の発信に有効活用していきたいと思います。対象年齢の見直しについても、ご意見を参考に今後検討して参ります。

石井会長

- 欠席委員から意見書の提出はありましたでしょうか。

事務局

- 本部委員から、ご意見とご感想を頂いています。ご意見（抜粋）と事務局からの回答を合わせて報告します。
- 【意見1：セイカ歩数計アプリについて（資料4、3ページ）】

セイカ歩数計アプリに健康ポイント機能が追加され、クーポン発券の手間が省け歩く励みになる。しかし、カード版についてはクーポン発券後の有効期限が1か月と短く使いづらい。また、桜が丘地区はクーポン券を利用できる協賛店が少なく残念である。

【回答】

有効期限は、発券後の利用忘れがないように設定しています。協賛店については、毎年町内の店舗を回って拡充を図っており、今年度も年度当初で8店舗増えました。桜が丘地区については、元来店舗が少ない中で、一部の店舗にご協力頂いている状況です。ご協力いただけそうな店舗がありましたら、本課までご一報ください。

- 【意見2：胃内視鏡検診について（資料4、4ページ）】

高齢者はバリウムを嫌がる人が多いので胃内視鏡検診の開始は喜ばしいことである。日頃の訪問活動での情報伝達に活用できるので、検診についての変更等の情報は、民生児童委員協議会で説明をしてもらえるとありがたい。

【回答】

今後、健（検）診等の変更・周知について、民生児童委員協議会へ情報提供し、周知にご協力を願います。

- 【意見3：新規ウォーキングコースについて（資料9）】

光台地区と精華台地区にウォーキングコースが設置されたが、今後、桜が丘地区やその他の地区にもウォーキングコースを設置してほしい。

【回答】

今回のウォーキングコースは、同志社大学の研究事業に協力し設置しました。今後、新たにウォーキングコースを設置する機会がありましたら、設置場所の候補としてご意見を参考にさせていただきます。

6. 次回会議日程

次回日程：令和7年2月19日（水）午後2時開始（予定）

7. 閉会

山本副会長よりあいさつ

私事になりますが、在職中に事務仕事が多くなり運動不足を解消するために、精華町から檀原市まで毎日自転車通勤するようになりました。退職後は地域の自治会の役員を引き受け、活動していました。現在も自転車は続けており、歯科医院も定期的に受診するというように、できるだけ健康寿命を延ばしていきたいとの思いで、日頃から健康づくりに取り組んでおります。本協議会を通じて、町の健康づくりについて皆で知恵を出し合えたらと思います。